

中学校・高等学校における水泳授業の現状

－青森県の現状に着目して－

澤田 有里 (弘前大学)

1. 目的

本研究では、青森県の水泳の授業の現状を明らかにするために、SNS 上で全国の中・高生に向けて水泳授業に関する意識調査を実施し、青森県と他県との比較検討を起こった。

2. 研究方法

- 1) 調査方法：全国の中・高生に向けた SNS 上でのアンケート調査
- 2) 調査期間：令和元年12月16日～26日
- 3) 調査内容：[1]水泳授業の有無[2]水泳の事故防止の心得の取り扱いの有無[3]水泳授業の実施場所[4]水泳場までの移動手段[5]水泳場までの移動時間[6]水泳授業の受講希望の有無
※[2]～[5]は[1]で授業ありを選択した回答者のみ回答
- 4) 採用データ：SNS 上で配布したアンケートに回答した全国の中学校以上、男性332名、女性261名、合計593名（うち、青森県出身者は中学校225名：37.9%、高等学校224名：37.8%）
- 5) 分析方法：統計処理には、Microsoft Office Excel 2016を使用した。

3. 結果と考察

1) 水泳授業の有無

中学校の授業の割合は、全体52.1%、青森県20.8%、青森県以外71.4%、高等学校では、全体34.2%、青森県9.4%、青森県以外49.2%であった。青森県の水泳授業実施率が低い原因としては、①学校のプール保有数が全国的に見て少ないこと、②プールの老朽化や維持管理費の点からプールを使用していない場合があることなどがあげられる。これらは、青森県の気候に起因しており、気温・水温等の関係から十分な学習時間とその効果が得難い環境であることが影響を及ぼしているとも考えられた。

2) 水泳の事故防止の心得の取り扱いの有無

中学校での取り扱いありの割合は、青森県42.6%、

青森県以外48.5%、高等学校では、青森県33.3%、青森県以外41.7%であった。学習指導要領においては、水泳の事故防止の心得は必事項であり、指導が口頭でのみの説明であったり、体験的な学びでなかったりしたため、生徒の印象に残らず、取り扱われていなかったと判断した人が多くなった可能性が考えられた。

3) 水泳授業の実施場所・移動手段・移動時間

青森県・青森県以外ともに中・高の水泳授業実施場所が学校プール、移動手段が徒歩、移動時間が10分以内が、各項目の中で最も高い値を示した。

4) 水泳授業の受講希望の有無

受講希望について、青森県・青森県以外、水泳授業の有無別、男女別の全8項目に分類して分析したところ、中学校では全て、高等学校では6項目において、受講を希望する者の割合の方が高い結果を示した。このことから、水泳授業に技術面の向上への期待や安全面に関する知識や実践力の習得が可能であることなど、プラスのイメージを持っている人が多いことが考えられた。しかし、青森県・青森県以外の授業なしの女性の2項目のみ、中学校では受講希望者と希望しない者の割合がほとんど変わらず、高等学校では、受講を希望しない者の割合が青森県55.1%、青森県以外60.2%で、受講希望者の割合を上回るという特徴が見られた。

4. 結論

青森県の水泳授業の実施率は全国と比較すると半分以下の割合で非常に低く、水泳授業において事故防止の心得が取り扱われたと認識された割合は、青森県・青森県以外ともに低い結果となった。また、受講希望の結果から、水泳授業の価値は一定の支持があると判断できるが、授業なしのグループのみ受講希望の割合が低く、水泳の授業実施にあたり、先入観やマイナスイメージの払拭の必要性が示唆された。